

前会長様三十年祭・三十乃奥様二十年祭 ～思い出はいつまでも続く～ 平成31年3月31日



五代会長任命お運び (昭和62年6月26日)

ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

貴方への手紙 (301)

今まさに平成の時代が終わろうとしていきます。貴方はどんなお気持ちでしょうか。

私が会長にご任命頂いたのが昭和62年6月。就任奉告祭には前の真柱様ご夫妻をお迎えし、前会長夫妻もお元気で大勢の皆様と共に盛大に祝って頂きました。懐かしいお顔が目には浮かびます。

その約一年半後の昭和64年1月7日昭和天皇崩御により時代は平成の世になりました。ちょうど平成時代の約30年間、私は会長のご用を頂いてきたのです。

戦後経済の右肩上がりに比べて平成は右肩下がりの時代と言われます。少子高齢化、人口減少の波が押し寄せ、新たな時代をいかに迎えるか、国も地域も模索が続いています。

十年一昔、三十年は一代とか。時代が変わり世の中も変わり、未来はどんな時代かと思えば楽しみと不安が入り交じりますが、私は

生きることが守護を感じながら、今できることをさせて頂きたいと願うばかりです。

一昨年の創立一二〇周年記念祭の記憶も新しいのですが旬は巡り今は早、再来年の夕張大教会六代会長就任奉告祭に向かう頃となりました。

今月末には前会長の三十年祭、夫人の二十年祭をつとめさせて頂きます。

時の経つのはこんなにも早いのか！とその感傷は多くの詩歌に詠まれてきましたが、時間の経過は親神様のご守護。人が成長し成人するには必要なことです。気がつくとも私も当時の前会長の年令に近づき、次代を後継者に託す時期になりました。

会長の交代については真柱様に逐一ご相談申し上げ、就任奉告祭の日取りも立教一八四(二〇二二)年九月四日(土)とお決め頂きました。当日は真柱様祭主の下、奥様、大亮様ご夫妻のご臨席を頂き

奉告祭を共につとめさせて頂きたいと願っています。

日頃、自分に言い聞かせていることですが、お道を信仰する喜びと使命は、教祖の教えによって一人ひとりの心が立ち替わり、たすけあいの陽気ぐらし世界を築くことにあると思います。自身の陽気ぐらしを深め、それを広げることが目標です。

私は、生きる感謝、心のお掃除、恩返しの種類まきがお道の信仰の本質と考えてきました。

成ってやることを喜ぶ。共に幸せに生きる。誰かを幸せにするために生きる等、様々な言葉が浮かびます。

理想と現実の違いは次世代へと申し送りたいと思います。

おかげさまで今、うれしいなあ！ありがたいなあ！もったいないなあ！と感じられることはご守護と代々の信仰のおかげ、皆様のおかげであり、感謝のほかありません。今後もお道の信仰の上に皆様には御尽力頂きますよう心からお願ひ致します。

三月十日記

今後の予定

- 3月26～29日 学生春のおぢばがえり
- 3月31日 四代会長御夫妻・年祭
- 4月17日 教祖御誕生祭団参出発
- 4月29日 全教一斉ひのきしんデー
- 4月30日 少年会夕張団総会

★夕張大教会
ホームページ
bariten.main.jp



二月月次祭の様

2月に入ってから大寒波が押し寄せ、道内は連日寒さと大雪の日が続いていた。岩見沢でも毎日数十センチの雪が降り、屋根には1メートル以上の積雪が出来、14日には祭典準備と並行して青年が入れ替わり立ち替わり、雪下ろしの為に屋根に上がって汗を流した。

迎えた祭典当日、今までの天気は嘘のように気温が上がって、春の近付きを感じさせる陽気になった。祭典中には神殿の大屋根からドドドッと大きな音を立てて雪が落ちるのを見ながら、勇んだ地歌と鳴物の音を響かせた。

講話には大教会長夫人が壇上に上がり「昨年の12月17日に白内障の手術の為に、市立病院に入院しました。即日手術をして、無事に手術が成功しました。

病室は四人部屋だったんですが、その中に私とは違って緑内障を患っているご婦人さんがいらっしやいました。何度手術をしても思わしい結果が得られないようでした。

その方は私より早く退院する予定でしたが、退院予定の日の朝、眼圧が上がって退院が延期になってしまいました。ショックで寝込

んでいるその方を見て、私は勇気を出して話しかける事にしました。聞くと、昨年8月までは大病もせず働いていたようですが、ある日突然具合が悪くなり、病院へ行くと脳梗塞との診断。それ自体は早期発見で症状も軽かったようでしたが、退院後に眼の激しい痛みで耐えられなくなり、市立病院で緑内障と診断されたのです。



手術しても中々良くならない事に加えて、今回の退院延期が重なり『このままこの眼は見えなくなるのかもしれない』と随分落ち込んだ様子でした。

私は素性を明かして、神様に祈らせてもらいたいと伝えると『是非にも』との事だったので、おさづけを取り次がせて頂きました。そして十全の守護やかしものかりものの教理を話すと、何となく心に納まったようでした。

私が退院するまでの3日間、日に3度ずつお取次ぎをさせて頂く

事ができました。『温かい気持ちになって、安心出来る気がします』と喜んでくれました。その方は年内に退院しましたが、それまでおたすけに通わせて頂き、また連絡も取って様子を聞いていました。

年明けて1月16日、その方は再び手術の為に市立病院へ入院しました。手術の次の朝、どうだったのか聞こうと電話をすると『手術は失敗しました』との事でした。もう片目は見えなくなるのかもしれない、何とも残念そうな声に私も何と声を掛けていいのか分かりませんでした。

絶望の中の彼女に、私がこれまで9回手術台に乗った事、その中で死を覚悟するような大きな身上もあつた事、色々と考えながらお話しさせてもらいました。そして『片目は見えなくなるかもしれない、でもまだ元気に使わせて頂ける道具があるんじゃないですか。それを喜べるようになったら、心も少し楽になると思います』と、精いっぱい思いを込めてお話しさせて頂きました。すると『藤田さんの言っている事、何となく分かります』と、真摯に聞いて下さり、その方の心も少し納まったようでした。

今後も手術を控える彼女に『毎日神様にお願ひして下さい』と仰つて頂き、これからもお願いごとめやおたすけをさせて頂こうと思ひます。『今、出来ることがある！』というスローガンに合図立て合い、入院中という出来る事が少ないように思う中でも、私に何か出来るだろうか、と勇気を出して声を掛けさせてもらって良かったと思つています』と話された。

また、一月の婦人会の例会での、中山慶純先生のお話を紹介され、続いて来年に迫つた婦人会百周年総会へ向けて、それぞれが会員一名をお連れ出来るよう、声掛けをお願いした。

その後、辞令があり、学生担当委員会新委員長の富山知一氏(栗山)に辞令が交付された。

大教会長は「2月はどこも雪もあつて大変だったと思います。雪下ろしの際は気を付けて下さい。

昨日、婦人会の元の理の勉強会の講師をさせて頂いたんですが、元の理にちなんだ話を一つ。深谷忠政先生が本通りを歩いていると、一人のご婦人さんから声を掛けられました。そのご婦人、神戸で布教し、立派な集会所や何人もの信者さんをご守護頂いたが、上級の普請の為に集会所の土地家を

売って御供したところ、『折角建てたのに』と尽くしてくれた人達が離れてしまった。さらに後継者と見込んでいた長男を身上で亡くしてしまった。信仰に自信を失い、おちばへ来たのでした。

その方へ深谷先生は『一緒に元の理を読みましょう』と言って、二人で元の理を拝読したそうです。そして『親神様は人間創造から九億九千万年以上、私達人間が陽気ぐらしをするのを見たい、という事の為、何の見返りも求めず、無償の御守護を下さっている。あなたが尽くしてきた事は素晴らしいが、心のどこかで見返りを求めている、それでは未だ本当の信仰とは言えないのではないか』とそのご婦人に言われました。するとそのご婦人は得心がいったのか『そうかもしれませんが、ありがとうございます』と喜んで神戸へ帰っていきましました。

そのご婦人は兵神の天浦分教会の木下先生であり、現在天浦は教内から注目されるほどの勢いを持った教会となりました。元の理は中々理解できない部分も多いと思ひますが、そこには親神様の深い思召があつて、読む程に心に納まってくるんじゃないかと思ひます』と話された。

三十乃奥様の思い出集より 『理は働き、続く』ひきよせ二九八号掲載手記より

節をいただき心を造り

「私は二十歳（昭和十五年秋）で別科六十五期で別科最後の期に入れて頂き、紀元二千六百年の旬（初代・神武天皇即位を記念して神宮と陵墓が造営された）に遭い、檀原神宮の神苑の植木を植え、庭つくりは別科生がひのきしんに出ていった事があった。（中略）」

一昨年（平成五年）菊の花の頃ちよつと訪ねて廻ったのですが、あの時の木々が六十年経った今日すっかり立派になって、私達を見下ろす大木になっている。又二世、三世も育っている。どんな用材になるか、又倒れてしまっているか、ものは言わないが幾変遷苦労したであろう木もある。人間も節を頂き心を造り、育てられてきた心の成人があると思うのです。」

五十年たった今振り返ると見えず知らずの北海道に兄に連れられて二晩と三日かかって岩見沢の駅に着いた。着いた時には機関車の煙で顔も手もまっ黒。

それよりも、どうしたことか歯の痛みに悩まされ、着いた時には左の頬がすっかり腫れ、（中略）八の髭を生やした清真布の会長さんが「あんたがその歯が痛むのはなぜかわかりますか」と聞かれたが、

今思えば「たんのうの心を納めよ」とお知らせ頂き、（中略）又今清真布分教会の会長を勤めさせて頂きますますたんのうの心を納めて、人の喜びを見て楽しむ教会の内容充実を勤めさせて頂きたいと思えます。（後略）



『婦人会創立110周年 会員決起の集い』

来年2020年4月19日に執り行われる婦人会創立110周年記念総会へ向けて、本年5月から9月にかけて、全国各会場で『会員決起の集い』が開催されます。6月30日は夕張大教会が会場となりますので、婦人会員はもれなく参加お願い致します。

冬の関西・詩の旅

作・梶川創二郎

今年は、かなりしつこい冬將軍が居座り続け、大教会も大雪と、しばれに、見舞われました。しかし、3月の声を聞き、巡教員の右往左往とともに、春来る。おちばでの冬のひとときを、川柳で振り返りました。

「御影堂 雪に見舞われ 常夜燈」

宗祖を祀る御廟を御影堂といいますが、高野山の弘法大師は別格で、ほとんど御影堂と言えば、関西では高野山を指します。標高も高いので、12月に、雪に見舞われ、常夜燈の石灯籠が明かりを振りまいて、ぼんやりした景色がきれいです。

創立110周年
会員決起の集い
きっとみつかる 今の自分にできること

天理教婦人会は
立教183年(2020年)
創立110周年
を迎えます

会期 182年5月1日～9月16日 (2019年)
会場 国内、海外各地で開催
※会費は11月27日天理教婦人会ホームページをご覧ください
内容 ビデオ 講話 感話
おつまみ
500円

天理教婦人会

「常夜燈 菜種油の すず香り」

その常夜燈に近づくと、菜種油のかおり。おちばの御神座の灯明も、風向きで菜種油の香りがします。弘法大師ゆかりの、京都の東寺の五重塔・講堂などを拝観すると、窓がないので、灯明のすずけた明かりだけで、薄暗く、鼻の穴まで真つ黒になった気がします。

「雪山の 裾野の軒の 吊るし柿」

柿はかなり寒い、長野や岐阜の高山でも作られていて、山の白と柿の赤いコントラストが見事な句です。

「朝の月 大和三山 映し出す」

大和三山は天理からは全部が見えにくく、田原本に近づくと南の方角に、耳成山、畝傍山、天香久山を見受けませんが、月がよく見え

るのですから、田原本付近で見た風景を詠んだのでしょうか。大和三山の青い森が浮かびます。

「空焦がす 若草山焼き 春の音」

テレビでこそ、パチパチと燃える音まで山焼きの映像と共に流れますが、1月第4土曜日に、若草山の山焼きが行われます。一度、おちばがえりの近鉄電車の車窓から、オレンジ色の山焼きが見えたとき、大火事だと間違ったことが有りました。

「東大寺 修二会火の粉の お水取り」

東大寺の二月堂・2月13日の午前1時のこと。火のついた松明を、火の粉を振りまきながら運ぶ様子は、お水取りの定番の様子。テレビでもおちばにいなけりや味わえません。春近し…：というところ。 解説・ま

夕張大教会会場
日時 6月30日 13:00～15:30
内容 ビデオ・講話・感話
参加費 500円

元の理勉強会

婦人会長様の思いを受け、それに沿った活動として、委員部長を対象に毎月14日の14時より、元の理の勉強会を行なっています。

大教会長様を講師にお迎えして、元の理の難しい部分なども大変分かりやすくお教え頂いています。



少年会夕張団総会

4月30日(火)

9:00 受付 13:00 食事・お楽しみ行事
10:00 開会 14:30 解散予定

おつとめまなび役割

よろづよ～ 三下り目 栗山 馬追 理喜道
四下り目～ 六下り目 祝梅 清真布 北夕
七下り目～ 九下り目 上富良野 峰延 幌都 夕喜元
十下り目～十二下り目 直轄 幌向 長沼 旭都



謹告 おさづけの理拝戴について

おちばの部署より連絡があり、少人数ずつではありますが、おさづけの理の拝戴が出来るようになります。また追って連絡をいたします。

こども隊大募集中です

夕張団鼓笛隊は今年の『こどもおちばがえり』に参加することを決め、隊員、スタッフ一同、練習にとり組んでおります。また6月に開催される『北海道音楽大行進』に出演する準備もしています。初めての隊員でもわかりやすく、易しく指導していますので、鼓笛練習参加へのお声掛けよろしくお願います。



庶務部

▽初席

佐藤おちら (上富良野) 2・18

中島 圭太 (峰延) 2・22

小山 征紀 (清真布) 2・24

▽教人資格検定講習受講 2・27

竹田 元 (馬追)

▽諸所教養掛

3月 松下 勝彦 (神富)

4月 竹田 元 (馬追)

大教会日誌抄 2月

1日 たすけ推進会議

12日 会長夫妻、美榮分へ

14日 祭典準備

月例会議

15日 月次祭

16日 網走大子ども会来会(17日)

19日 会長、札美分へ

21日 会長夫妻、関東方面へ

その後おちばへ

23日 鼓笛練習(24日)

26日 本部月次祭

遥拝式

27日 会長、基礎講座 かなめ会

28日 会長夫妻、帰会



編集後記

2月の前半、わが教会の神殿の屋根の雪は盛大に落ちた。通る道もなく、悪戦苦闘。年ごとに多寡はあれど、毎年同じ事をしていくはずなのに、なぜこうも例年大変な思いをするのか、と恨み半分雪をつつく。

ふと、新鮮な思いで雪かきをしている自分に気が付いた。大変ではあるが、去年とはまた違う気持ちで目の前の雪の塊と戦っている。私達は毎日の生活の中で、同じことを繰り返す内に感じる心が少なくなる事がある。気が付くと無感動の内に、習慣としてこなしていく事も多いだろう。

同じようなものに感じられても、そこには小さな違いや変化がある。それになるべく気付けるように、新鮮な気持ちでいられるように、新鮮な気持ちと喜べる事が増えるのではないかと。そしてそれは、教会・学校・職場など、どこにでもあてはまるのではないかと。「大変さは喜びだ」と気付いたことを、来年まで覚えていられるだろうか。



網走大教会子供会の皆さん 3月16日撮影